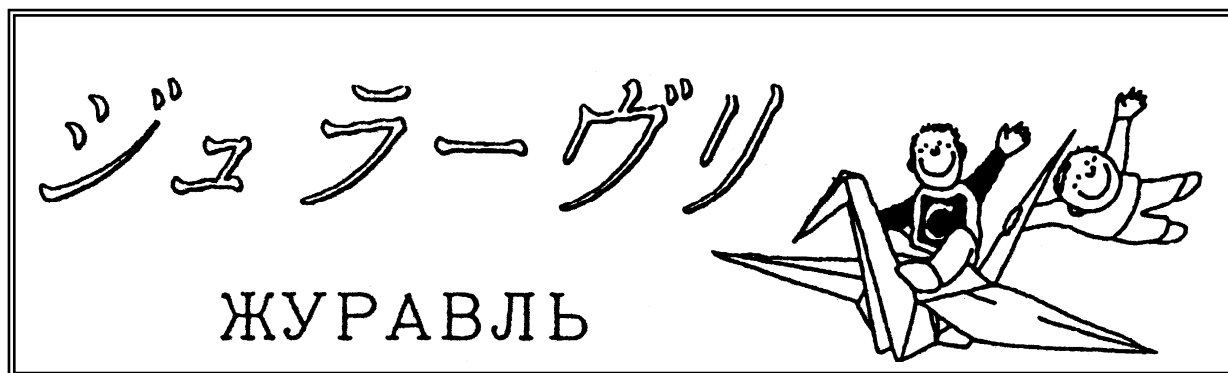




トリチウム汚染水の海洋放出反対！ 福島からの署名呼びかけにご協力下さい

新型コロナウイルス感染拡大による「緊急事態宣言」下での「自粛」が続いていますが、皆さまいかがお過ごしですか。一日も早く感染が終息に向かうことを願うばかりです。私たちは「コロナ自粛」の中でも、チェルノブイリとフクシマの友人たち、そして志しを同じくする多くの皆さんと繋がって、自分たちにできる取り組みを続けていきたいと思っています。

残念ながら、3月に予定していた「チェルノブイリ被災地・若者交流～フクシマとチェルノブイリを結ぶ旅」は新型コロナウイルス感染の世界的拡大の中で延期せざるを得ず、また4月17日に大阪で開催予定だった「チェルノブイリ34周年の集い」も延期を余儀なくされました。

前号でお伝えしたように、チェルノブイリ訪問の「事前学習」として、1月末、学生2人とともに、檜葉町の佐藤龍彦さんの案内で、福島県「浜通り」の被災地を視察してきました。訪問先の一つ、相馬市新地町で、漁師の小野春雄さんにお話を伺うことができました。大地震・津波に加えて原発事故被害の中での体験と想い、「漁業者は復興したなんて思っていない」という現状、さらに今、政府と東京電力が強引に進めようとしている「トリチウム汚染水の海洋放出」に対し「海を汚すな！」という強い訴えもお聞きしました。3頁以降に、小野さんのお話と、視察に参加した斉藤愛さん（福島市で被災）の体験と感想文を掲載していますので、ぜひお読み下さい。

小野さんのお話しにもありますように、今、政府と東電は、福島第一原発の敷地内に溜まり続ける高濃度のトリチウムやその他の核種を含む、「多核種除去設備[ALPS]処理水」（トリチウム汚染水）を「薄めて流せば大丈夫」として、「海洋放出」選択・決定に向けた準備を着々と進めています。

2015年、汚染した地下水（サブドレン・地下水ドレン）の海洋放出を苦渋の選択で受け入れた際に、福島の漁業協同組合連合（漁連）と政府・東電のやりとりの中で「汚染排水は薄めない」「ALPS処理水は海に流さない」との「約束」がなされています。また、もしALPS処理水を海洋放出



朝陽と漁船（新地町で、川島秀一さん撮影）

したら、東電の試算に基づいても「原発の敷地境界で年 1 mSv」「一般公衆の被ばく限度1mSv/年」という法令に明らかに違反することになります。さらに「放射性廃棄物の海洋投棄は選択肢としない」とした原子力委員会の決定（1993年）にも反し、そして海洋汚染を規制・禁止する国際条約（国連海洋条約、ロンドン条約）にも抵触します。しかし政府と東電は、国民にはこれらの事実は知らせず、ごまかしながら、「もうタンクの置き場がない」（これも事実ではないのですが）と宣伝し、この機に海洋放出を決めてしまおうしているのです。こんなことを許せば、今後何十年にもわたって、どんな高濃度の放射性物質でも「薄めて流」せばいい…という暴挙を許すことにも繋がりがねません。

この動きはすでに数年前に始まり、今年 2 月には経産省の「多核種除去設備等処理水の取扱いに関する小委員会」（小委員会）が「海洋放出が最も現実的」とする報告書をまとめました。そして「コロナ自粛」など関係なく、3 月初旬から経産省による福島県内の関係各団体や自治体・議会等への形ばかりの「説明会」が次々と開催され、パブコメ（5 月 15 日締切）も始まっています。安倍首相も「できる限り速やかに決定したい」と明言（3 月 9 日）し、この夏までには「海洋放出」を決めてしまおうという勢いです。反対の声が福島県の内外から上がっていますが、県内世論全体としては、政府の「リスク・コミュニケーション」が行き届いているためか、まだまだ反対の声が大きくなっていないのが現状かと思えます。

そのような状況の中で先日（4 月 15 日）、「原発のない福島を！県民大集会」実行委員会から「トリチウム海洋放出に反対する署名」が呼びかけられました。今年は「コロナ自粛」のために毎年 3 月 11 日頃に開催していた「県民大集会」は中止せざるを得ませんでした。これ以上の放射能汚染の拡大を、しかも意図的に高濃度の汚染水を薄めて海に流すという「故意の加害行為」を許してはならないと、反対署名が始まりました。この署名には、福島県漁連は勿論のこと、農協、森林組合、旅館ホテル組合など、生産者、観光業など様々な立場の方々も賛同しています。「県民全体の声」として反対世論を上げ、国・県・東電に示していこうとの取り組みは、これが初めてです。

残念ながら、新聞ではこのような市民の声がなかなか記事に取り上げられないようです。また「コロナ自粛」のため、対面での署名協力の呼びかけもできない状況もあり、なんとか口コミでも拡げていかなければと思っています。前述のように、夏前にも政府は決めてしまおうと躍起になっているので、大至急拡げて数を集めなければなりません。（一次集約、6 月末。二次集約[最終] 8 月末。）

「海洋放出」は、福島だけの問題ではなく、全国、全世界の問題でもあります。隣の茨城県では知事も漁連も反対し、全国漁連も反対を表明しています。福島県知事は残念ながら「慎重に対応」と反対の姿勢を示していません。「県民大集会」実行委員会は「全国の人々とも繋がって反対の世論を強めたい」と、全国にも署名協力を呼びかけています。全国的に「緊急事態宣言」下の「自粛」で、なかなかいつものように署名の声かけもできず、動きにくい中でのお願いになりますが、皆さんの回りで少しでも声かけをして署名を集めて福島に送って下さい！ フクシマと繋がり、これ以上の放射能汚染の拡大をさせないために「トリチウム汚染水」の海洋放出反対の声を大きくして政府に迫っていきましょう！

ご協力よろしくお願い致します。

「救援関西」事務局・振津かつみ

.....
同封の署名用紙をご活用下さい。署名の送付先は用紙に記載されています。（オンライン署名も準備中です）署名用紙と呼びかけ文は下記「原発のない福島を！県民大集会」の HP からダウンロードできます。

<http://fukushima-kenmin311.jp/>

また下記「ヒバク反対キャンペーン」の HP の解説と同封のリーフレットもご参照下さい。

<http://hibakuhantai.sakura.ne.jp/toriumu-top.htm>

パフコメへの反対意見の投稿も、ぜひお願いします！

<https://search.e-gov.go.jp/servlet/Public?CLASSNAME=PCMMSTLIST&Mode=3>

福島県相馬市新地町

釣師浜の漁師 小野春雄さんにお聞きしました

1月25日、檜葉町の佐藤龍彦さんの案内で、チェルノブイリ被災地訪問予定の二人の学生と一緒に、相馬の漁師さんの小野春雄さんのお宅に伺ってお話をお聞きしました。学生二人は、福島市出身の斉藤愛さんと、チェルノブイリ訪問交流のロシア語通訳を担当してくれる竹内大樹さん（神戸大学大学院生）の二人です。小野さんは、震災・原発事故後、9年余の体験と思い、そして漁師としての思いを2時間余にわたって熱く語ってくれました。その全てをお伝えすることはできませんが、以下、事務局・振津の責任でまとめた小野さんのお話をご紹介します。

1) 大震災と津波、原発事故直後の体験

まず、震災当時のお話を聞かせて下さい

自宅は釣師浜でしたが、家は流されてしまいました。釣師は低かったからね。全部無くなりました。1軒も残らなかった。だから今は新地町が借上げて、公園とか慰霊碑とか、そういうのを作っています。釣師浜はもともと270軒くらいありました。新地町で一番戸数が多かったんですね。漁師は20軒くらいですね。関連死と併せて、新地町で亡くなったのは119名です。



「新地町ノート」より引用：
<http://shinchi-note.com/shinchi-machi/>

釣師浜の漁師さんたちは、津波に向かって船を出した…

そう…私と息子は早く船出して助かったんだけど。弟は亡くなったんですよ。釣師で40艘近く、大体7割くらいの船が海に出た。そのうち2艘は津波に飲まれて海に沈んだんですよ。1艘の人は助かったんです。でも俺の弟は亡くなったよ、遅く行ってね。

沖でなんで助かったかっていうと、昔、ここ釣師浜というのは、地震になるとけっこう津波があったんです。津波になると船を何時間でも海に出せば安全だからってことで、昔のじいさまだの言い伝えで出したのさ、相手がまわすに。生業として船が無くなると仕事になんねえからって出したんだけど…やっぱり、私、3.11で考えが変わった。なあ、命ほど大事なものはないんだ。だから息子には、ここにいれば安心だから、絶対、地震、津波があったって浜に行くなよ、船は壊れたっていいって、壊れたって直せっからそのままにしておけと言っています。震災前はそんなこと考えなかったよ、やっぱり。生業として、船が生活の糧だから絶対助けなきゃなんねえって思いでやってました。あんときは津波が来るのはわかっていたが、海に船を出す時には、こんなに大きい津波来るとは思わなかったもの、怖いとは思わなかった、みんな…。

一晩中海の上で、翌日帰ってみると…

帰ってきたのは、次の日だ。一晩、海にいたんだ。電話は通じないし、丘には電気は見えないから、海で、何があつたかと…。海にいた人は、みんな、何一つ持っていかなかったから、お腹は空くは、

弟とは連絡とれないし、丘を見ても電気は見えないし、何があったの…（と心配したけど）家流されたと思わねえのさ、次の日来るまでは。丘に戻ってくるまでは、わかんなかったんだよ。

2時50分頃出て、次の日の3時頃までまる一日、沖で待機してた。そして、津波おさまったからって、私が船主会の会長してたから、一番最初に（港に）入って岩壁に着けっかと思ったけど、その岩壁が見えなかったですよ。潮が満潮で。ダメだ…ということで、皆、一旦船を沖に戻して、行ったり来たり…3回くらいしたね。3回目でやっと岩壁が見えたからって、今の新しい港の所にすぐに着けて、息子たちに「役場さ、行ってこい」って、どうなってんだか。役場からだって、ほんとに浜に来なくてはならなかったんだけど、誰一人来なかったの。

俺は息子に、心配だから家どうなってるか見てこいって、行かせたが、「いやいやどうにもわかんない」って、戻ってきたの。どうにもなんねえから俺が慌てて岩壁に上がって行ったら…この世の中にこんなことあったかな…って。だって、なんにも無いんだもん。家は無いは、倉庫は無いは、流されて。

家族との再会、そして原発爆発を知る

家族どうだかって心配で、弟の家が高台だったから、うちのはここに逃げていると思ったから行ったのよ。でも誰もいないのよ。わかんなくて、息子たちと歩いて役場さ行ったわ。ちょうど役場さ行ったら、自衛隊がいたのね。自衛隊さんから乾パンの缶詰をもらって、あいつのうまかったことはないってよう。たまたま誰かトラック来たもんだから、「誰もいないがどこさ行ったの」って聞いたら、「みんな総合体育館へ逃げましたよ」って聞いて総合体育館へ行ったっけ。新地の小学校の体育館では400人もいたね。12日の夕方。家族いて、みんな助かって。

そこで、3月12日の昼間に（原発が）爆発したって聞いたの。放射能って、こんなにおっかないってイメージあったから、爆発したら、こんな所にはいられないから、山形の方に逃げるっぺかと家族会議してたの。だけど、弟が上がんないから、弟を確認しないわけには…。あと、ガソリンもあの当時入れられなかったから、どうすっぺって。

弟を探したが…見つからず

次の日から、弟を探してさ。どこかに上がってるかってよ。3月は、津波もあって、原発事故もあって、弟はいなくなるし、家は流されるし、働くあてもないし…どうなることかって。海さ行くこともないし、心配だったね、生活面で。それでストレス溜って病気になったんですよ。新地の体育館で暮らしててね、太って血圧上がって、眠れないし。医者さ行って、痩せなさいってことで、それで山登りして、ウォーキングして、今は元気取り戻した。あの頃は…何考えていいかわかんなかった。震災当時はいろいろありましたね。

弟はすぐには見つかんなかった…私がDNA鑑定を警察に届けていたから、警察から、「小野さんと一致した遺体が火葬してあります」って、連絡来たの。本人がいなくても、着物とか（で代わりにして）、お盆前に葬式上げるってことでやった。（後から）警察が言ってきて、「弟が火葬になってるから、小野さんちょっと来て下さい」って。それで、あいつを小野家に、親父とおふくろのいるお墓に入れたの。だから弟は、早めに上がってたんだね。ただ、わかんなかっただけで。身元がわかんなくて、警察が



新地町・釣師浜の漁師
小野春雄さん

火葬したって。あんとき弟は57歳、二つ下だから私が59歳。この震災で、おじさん、おばさん3人、弟と4人、それに、その長男で5人亡くなったね。

2) ガレキ除去、試験操業…そして現状

ガレキ除去、試験操業…やっとここまでできたが

2ヶ月後、仮設住宅ができたってことで入居しました。そこからが…アルバイト。俺の息子は鳶職したり、大工や土方や、今までやったことのない仕事。私もアルバイト、けっこういろいろやりましたよ、生活のためにね。

そして仕事何かないか…ということで、我々も要請して、少しずつに海の仕事が始まった。国からの補助をもらって、一番初めにやったのは漁ではなくてガレキの仕事（海のガレキを除去する作業）。海をきれいにしようってことで。作業が始まったのは盆過ぎだな。けっこうかかったね、海をきれいにするまでにね。1年近く、次の年までやってたね。ガレキ除去しながら、魚の放射能のサンプル調査やりましたね。ガレキ作業が終わって、そろそろ放射能もないってことで、二年目から試験操業開始です。タコとツブガイ、そして次の年はコウナゴ。ちょっとずつトライして、今では全ての魚種で出荷制限はなくなった。やっとここまで試験操業してきたんだけど、なんせ魚は売れない。（補足：2020年2月25日に最後の1魚種だったコモンカスベの出荷制限を原子力災害対策本部が解除した。）

漁師だけでなく、仲買さんも生活できなければ共倒れ

そこに、今度はトリチウムを海にぶちまけるとかって、原子力規制委員長が「海しかない」なんて騒いで言ってる。福島県で、一番影響を受けているのは沿岸魚だ。放射能があるからダメだなんて言って、魚は売れない。そこにトリチウムなんて投げたらよ、風評被害で売れなくなったら、我々ばかりでない、仲買さんがいなくなるのが困んのよ。仲買さんも、「こんな安い魚買ったって、生活してらんね」って。そんな話し聞くとがっかりすんのよ。仲買さんだって、今の状態では、「給料払って人を雇うこともできない」って。だから人がいないし、人いないから魚も買えない。漁師ばかり復興したってよ、買う人がいなかったら、我々出荷できない。共倒れになる。

試験操業から本格操業になる見通しは？

見通しが立たないから困っているんですよ。明日が見えないのさ。明日になるんだか、10年後になるんだか、50年後だか、100年後だか、誰もわかんないのさ。（今はまだ試験操業で）我々仕事場がないから東電さんが、国からの資金を借りて、我々に休業補償を出してるわけよ。（補償継続の適否を）決めるのは政府と東電。決めんのは船方（船を所有している漁業者）ではないの。

「本格操業だ」と決められたって、魚売れなければ、船方は生活していけない。だから今の漁業者は、うんと心配して、それがストレスになって病気になったりしてんの。動かないは、仕事はしないは、仕事はねえは、仕事無いから、今度は酒は飲むは、みんなストレス溜たまって困ったって言ってる。俺は、山登りとか旅行とか、いろんなことしてストレス発散してっからいいの。一人で海さ行って、一人で魚獲るのが趣味だから。魚獲るのが喜びだから。俺みたいな人ばっかいないんだから。

大震災・事故後の9年間で一番辛かったことは？

やっぱり、親戚、弟が亡くなったこと。弟ばかりではない。全財産、家は流されるは、車は流されるは、私財は流されるは、何一つ残らなかったんだもの。どうして暮らすべって。一番困ったのは、あの当時、震災後の1ヵ月。あの頃は…だから俺は病気になったのよ、ストレス溜まって。あの頃は見通しが立たなかった。海には行くことはできないは、原発事故にはなったは、弟は亡くなったは、あの頃は一番ひどかったね。

事故後の漁業者としての補償は？

営業損害と休業損害として、（事故前の収益の）83%を貰ってます。それ以外は何も無い。3ヶ月ずつ振込んでよこすの。だって仕事場が無いのさ。俺が勝手に海さ行って魚獲るって、昔は自由だったんだよ、いつ行ったっていいのよ。だけど今はダメなの絶対に。そういう規則があって、そうすれば、東電から補償を打ち切りますよって。だから海は仕事場であって、仕事場でないの。

試験操業は1ヶ月に8回と決まってるの。それ以上は出らんね。船によって違うけど。震災前の自分



小野さんのお話を熱心にメモを取りながら聞く齊藤さんと竹内くん

の出漁日数で、俺は毎日出てたから月20日の3分の1で、8回が最大なの。だから5回の人もあるし、3回の人もある、1回の人もある。震災前の5年間のトータルの出漁日数で決まる。月に8回行っているぶんは（補償から）引かれる。そして残ったのを東電が払う。だから東電は、仕事に出て下さいっていうわけさ。水揚げ増えれば、東電は少なく引いてよこすんだから。

私は二人使ってるから、水揚げが上がらなかつたら赤字なのよ。これはしゃあないのよ。海を守るために、海に行って仕事するんだから。海ってのはよ、毎日行っていないとわかんないのよ、変わるから。去年獲れたからって、今年また獲れるかどうかわかんないし。若い人たちは、海さ行かなかつたら、仕事も覚えられないし。釣師浜では漁業を離れる人はいない。新地で、この浜が一番だね。福島県で船方全員が戻ったのは、新地の漁業者だけだね。新地の漁業者は40艘みんな戻った。（浪江町の場合は、今は船が29艘で、事故前は120艘。）

ただ高齢で、後継者のいない場合は、船は直さないで止めた人もいた。でも、船持って、後継者いなくたって、俺のおじさんだって今83歳だけど海に入っているよ。あれ（試験操業）したら補償でるけど、しないと補償が切れるから。普通は、漁師なんて80歳で働くって、今までないよ。

行政区のつながりもなくなり、長い歴史が潰れた

（釣師浜の元の）行政区の繋がりはない。だって船方もここと4つの区に、みんなバラバラだ。ほんとは、ここにみんな船方移住すればよかったんだけど、町が自分の好きなのこって言って。あの当時、大変だべ。土地買って、家造ってって、だから土地が一番安かった地区に集中したの。それに、海から離れたいって人もいるんだな。あの津波を見ると、怖いって。少し離れた地区に行くと安心だって。車で通える時代だから。

ダメなんだな、こう拡散すると繋がりが無くなってしまっ。船方は船方でこの一角にほんととは造成して家を造ればよかったのさ。我々も悪いし、町の土地計画も悪かったのさ。でもやっぱり船方は、海の近くに理想的には家を造るべきよ。船方の息子は海辺にいねえと、やっぱり後継者にはなんねえで

すよ。浜さ行って、海に行くと、子どももやっぱり浜さ行って待ってたりして、後継になるけど、今、丘さいるから船方なんか、なかなかなんねえんでねえか。

俺は漁師3代目。息子で4代。俺の実家は5代くらいだ。新地には5代か、6代くらいの漁師がいる。長い歴史がつぶれちゃったんだね。

福島海は魚の宝庫

私は中学校出ですぐ、15歳で漁師になった。今、68歳だから53年になる。だから海を守るべ。だって、我々じい様から先祖から、この太平洋で漁をやってきた。太平洋がなんでいいかって言うと、この宮城県に阿武隈川っていい川があつたら、そこのプランクトンが大量に仙台湾に流れつたら、潮の流れで福島てのは、魚の宝庫なんだ。川ってのは大事なんだよ。こんな大きい川はあんまりない。阿武隈川ってどっから来るんだか、百くらい支流がずっと流れて来るから、プランクトンが豊富なんだ。魚ってよ、山に関係ないってことない。俺、最初はそんなこと思わなかったの。ほんとに山さ登って、歩いて回って気付いたの。

魚ってのはどんな魚でも、一回産卵する時には波打ち（際）に来るんだよ。とんでもない沖で産卵するなんてありえねえんだぞ。だって小さい魚はプランクトン無いと育たないもの。大きくなってみんな移動すんだ。だから、山から流れた栄養素、川から流れた植物性プランクトンが海に流れると、小魚が一杯育つ。そして小魚を食べるので、こんどは大きな魚が来る。それがこの仙台湾なのさ。だから、仙台湾があつて、太平洋の魚が、こう回遊して来るんだ。太平洋に面した福島県は魚の宝庫なのよ。無限大なの。なんでもいるんだから。俺、50年間漁師やって、魚獲れなかったことねえんだから。そうやって生活してたんだもの。

3) トリチウム汚染水 (ALPS 処理水) の海洋放出を止めたい

子々孫々引き継ぐ 無限大の海に、トリチウムなんて絶対流すな！

いつまで経っても、放射能問題。そして今度はトリチウム。トリチウム汚染水を、海にやった（流した）場合、どういうことになるかわかんないけど、海に投げるのは、どうしても、ほんとに止めたいのよ。せつかく、こうして検査してきて、きれいになったのによ。なんでもねえったって、そんなもん、誰もわかることではないでしょう。そんなもん、世界で初めてなんだから。なんぼ国が大丈夫だと言っても。こういう放射能、トリチウムなんてのは、海に絶対流してもらったら困るのよ。

俺は今のことでなくて、50年後、100年後を見据えて、俺の子どもたち、孫たち、その代々ってよ。海ってよ、100年使うんだか、1兆、1億年使うんだか、海ってのは無限大なんだから。この海を、福島県で、汚れたとなれば、イメージが悪くなったら、また復活するのに50年、100年かかったら、福島県で漁師なんかやる人いなくなるよ。今でも、漁師になるって、なかなか少ないのに。だって収入無いんだから、新たに若い人だつて入ってこれない。仕事がいつからになるか、前がわかんねえんだもん。

「安心」なら東京湾へ持って行って流して下さい

(竹内：福島汚染水を大阪湾に流したらいいと、大阪の知事が言ったが…)

それを聞いて、なんで大阪に持って行くんだつて言うんだ。福島県の電気ではないんだから。ほんとに流すんなら、東京湾に持って行って流すのが妥当だろつて。大阪湾で…と知事が言ったが、俺はあり

がたいって思ったよ。持って行って投げて下さいって。俺も聞きてえんだ。大阪の人はどう思ってた。賛成？反対？

(竹内：もちろん反対です。大阪の漁師さんも反対しています。)

きれいな水なんだったら、何も大阪湾でなくて、東京で電気使ったんだから、東京の小池知事が手をあげて、安心なんだったら、どうぞ船で東京湾で持ってきてなあ、流して下さいって。あと飲み水にして、安倍総理に飲ませっからって、飲み水にして飲んだらいいべしな。安心なんだらなあ。俺はそう思うんだけど、どうだ。

危険なものを薄めて流せば大丈夫って!?

ある人が、「小野さん、タンクの水、調べてやっから持ってきて」と言うんだ。俺、東電に掛け合ったの、ほんとに電話かけたのよ、放射能のトップの担当者に。「測る人いるんだけど、タンク持つてくから俺に分けられねのか」って。「やあやあ、法律で決まってるから、そんなこと、あげられません、運ぶことはできません」って。それだけ危険なんだべ。そいつを希釈して、薄めて、海さ投げるって。ほんとにあいつら、常識で考えてもおかしいんだべ。それを、なんであの(原子力規制)委員長さんが、度々言うの。大丈夫だ、大丈夫だって。

世界でもトリチウムを放出しているって言うが、(事故を起こした原発から 高濃度の汚染水を処理して溜っているものを放出するというのは)日本が初めてでしょ。それが、希釈して投げれば大丈夫って言うけど。

政府や東電に、「法律違反」だって言うべ

振津：大丈夫かどうか以前に日本の法律に違反している。「告示濃度」以下であれば流していいというわけではない。薄めて流せばいいのでもない。すでに事故原発周辺には他の放射能もあり、またタンクや廃棄物があって放射線が出ている。それに加えてトリチウム汚染水を流そうしているが、そんなことをすれば法律に書いてある施設境界線量「年1ミリシーベルト」を超えてしまう。

小野：放射能について、法律があるの？ なら、あの委員長さんて、なんであんなことを強気で言うんだ。海に流しても差し支えないとか何とかって。俺は聞いてみたいよ。じゃ、放出を止めるにはどうすればいいの。

振津：それは皆で声を出すしかないですよ。私たちも反対するし、署名

したりとか、国に要請に行ったり。小野さんも政府交渉にも是非参加して下さい。

小野：今、船方で喋ってた。そういうふうに反対すればいいんだ。県内の人たちがこういうのに乗り気にならないと。

佐藤：全国漁連もトリチウム汚染水の海洋放出に反対している。福島漁連も反対だ。

振津：これはとても重要な問題で、漁師さんだけの問題ではなく、福島だけの問題でもなく…

小野：重要な問題だよ。大阪の漁師さんも相当怒ってるって聞いたから、実際には大阪湾で流すなんてできない。だから、放射能を分離して、トリチウムを長期保管して、その間に技術的な開発して、タンクを増やして溜めておけばいいんだべ。敷地がないわけだねえんだべ。



2時間余、じっくりお話をお聞きました

振津：放射能濃度の濃い、トリチウム以外の放射能が高濃度に混ざっているものをもう一度、処理にかけて…

小野：ALPSだな、そして違うタンクに移していくと。

振津：一番濃いものは、ちゃんと見える所で保管しなければならない。敷地内にも場所がないわけではない。土とか置いてある場所があるでしょ。そういう所に…

小野：本気になって考えれば、（陸上保管の方法や場所も）あるわけだ。法律違反だってことも、今、初めて聞いた。もし流すとなったら、東京から説明に来ると思う。そしたら、今言われたように、法律違反だって、突っ込めばいいわけだな。

大事なのは海を汚さないこと、海は繋がっている 日本だけの海じゃない

（この漁場は）宝庫なんだ。未来永劫、子どもたちに、それを継いでいくっていうことからすれば、そんなの何千兆かかったって、海なんてこれ、それ以上なんだから。なんぼ金かかったって、皆が納得する方法でやってもらえばいいのさ。一番大事なことは海を汚さねえことだ。日本ばかりの海じゃないんだから。繋がってんだから。だから、我々船方を泣かせない方法を考えて。今だって泣いているんだから船方は。それをまた苦しめるようなこととしては ダメよ。

4) 原発について

原発事故が起こる前は、原発ってどう思っていたのですか？

原発って、爆発するまで、あるかどうかもわかんなかった。船方だってね、そういうのに全然興味なかったの。なんなんだべって、原発で電気なんての。こういう事故あってな、初めて自分の身にかかって、原発ってこんなに大変だわってわかったんだけど。今でも山のキノコだなんなのって食べらんない。イノシシも食べらんない。丘の人も困ってるって。国では今、廃棄物の処分方法も、どこに処分すんだかわかんないべ。

全国の原発の再稼働の動きについてはどう思いますか？

福島県は全面廃止だけだな。今度、伊方の原発で（運転差止の）判決があって、良かったなって思ってるのさ。今、エネルギーに原発なければっていうが、やっぱりこういうことになったんだから、我々はほんとに原発には反対よ。ほんとに要らないんだけど、電気が大変だってことで、国でもやってんだが、絶対大丈夫だって言って、こういう事故起こしてんだから、これは絶対にダメよ。こんなことになったら大変だから。我々これだけ苦労してんだべ。もしものことがあった場合にな、原発って、こういうことがあるってことだよ。なんねえってこと、ねえよね、実際なってんだから。今に南海トラフで大きな地震来るなんてな、まともにくらったら、福島県民みたいに二の舞になる可能性がある。

福島原発を、俺も視察に行ったんだけど、あれは致命的なんだな。一番大事な非常用発電機を、下さ置いてたんだものね。あんなの高台に置いとけばいいものをね。誰が考えたって水に浸かるとこだ。なんで地下に置くのよ。それも電気関係に一番明るい人がな。高い所あったんだもの。あれはほんとに怠慢だべ。

5) 何ひとつ解決していない、漁業者は「復興」したなんて思っていない

安倍総理は現場の「生の声」を聞け！

我々は福島を食うんだけど、やっぱり小さい子どもたちいるおっかさんは、魚持ってくと、隠して食わせねって。そんなでは絶対に復興なんてするわけねえべしな。大事な子どもたちに魚食わせねかったら。ちょこっと調べて放射能ねえって、別のところで出てるかも知んねえしな。そんなもん実際に安心、安全かわかんねよ。何万分の1匹だけ調べただけで、米の全袋調査みたいに、魚一匹、一匹調べているわけではないんだもの。だからお母さんだって、おっかねえもん、食べさせねんだ。実際に、この福島県の魚を全部の子どもたちが食べられるようにしなきゃ、復興しないべしさ。まだ放射能がねえってこと、安全宣言したわけではないでしょ。

何ひとつ解決してないよ、ほんとに。安倍総理は、「福島県は大丈夫だって」報告したっていうけど。漁業者は、全然、復興したなんて思っていないから。だから私は聖火ランナーになって全国に発信しようかと思って応募した。実際に安倍総理は、福島に来て、パフォーマンスで何食ったの言ってるのなくて、ほんとに「生の声」を聞かないとわかんないのよ。我々の現場の声を聞かないと。ほんとに福島県の漁業者なんて、全然、復興してねえぞ。何一つ解決した問題ねえんだぞ。次から次、出てくんだぞ。放射能漏れしたの、雨水が何したのって。

「チェルノブイリ」を自分の目でみて確かめたい

斉藤 愛



震災の恐怖～頭にこびりつくように今でも抱えている

東日本大震災から9年が経ちました。私と同じ世代の人たちはあの頃の記憶をどれくらい覚えているでしょうか。約10年も前のことなので、これまでの出来事の全ては覚えていませんが、震災が起こってからの1週間はよく覚えています。

震災が起こった2011年の3月11日、私は小学校で授業を受けていました。小学5年生で、社会の授業でした。教室の中央の列の前から二番目の席に座っていたと思います。5限目の授業でした。机一面に大きくて重い教科書と資料集を広げて、ノートを取りながら先生のお話を聞いていたときでした。ボンッという小さな音が、座っていた椅子からなりました。椅子の座る部分の板があるとき確かにへこんで、直感的に「あ、地震だ」と思った直後に揺れが起きました。クラスの子たちは叫ぶ余裕がなかったと思います。揺れが収まったあとすぐに先生が机の下に潜り込むように指示しました。私を含めた女子生徒数人は声を出さずに泣いていたのを覚えています。

校庭に生徒全員が避難して、その後親が迎えにくてくれる生徒は残ることになりました。私の両親は共働きで、母は看護職で当然仕事場にいました。父も仕事場にいました。姉は学校が終わったあと、（確か中学2年生だったと思います。卒業式のため早帰りでした）友達と買い物に出かけていました。

私は、両親は学校まで来れるはずがないと分かっていたので、徒歩でそのまま帰路につき、家の玄関で姉と再会しました。姉は一步先に家に着いていて、家の窓を開けて出入り口を確保し、いつでも避難できるよう鞆に飲み物などを詰めていました。2階に置いてある子機の電話で岩手県に住む祖父母に連絡を取ろうとしましたが、繋がりませんでした。

キッチンには割れたガラスの破片が落ちてっていると姉が言い、踏まないようにしながら姉は買い物で買ってきた要冷蔵の食品をいれ、私は大黒柱の側で待機していました。そこが一番安全だと姉が言ったからです。家には私と姉の二人しかいませんでした。猫を一匹飼っていたのですが、いませんでした。名前を呼んでも姿は見えず、夜にようやく帰ってきました。地震が起こったとき猫は家にいたので、かなり怖い思いをしたと思います。あれからというもの、暫くは震度3程の揺れにも敏感になっていました。

母が帰って来れたのは夕方でした。確か、6 時頃だったと思います。それでも早い再会だったと思います。私はそのときはもう泣いていませんでしたが、どうすることも出来ず、姉が動く様子を見ているしかありませんでした。父が帰ってきたのは真っ暗になった 8 時頃でした。なかなか帰ってこなかったもので、父が帰ってきたとき泣いて抱きついたのは恥ずかしながら覚えています。

当然電気や水道といったライフラインは止まっていたので、お風呂にも入れずトイレの水も簡単に流せませんでした。幸い、姉がお風呂ややかんに水を溜めていたので、タンクに水を流して使っていました。夜はみんなで四角いこたつの布団に入って、湯たんぽを用意して寝ました。寒かったかは覚えていません。けれど、家が壊れず残ったこと、布団の暖かさのありがたみは良く覚えています。

電気が復旧したのは 13 日の 22 時でした。当時のカレンダーに記載されていたので確かです。そのとき既に家族は寝ていたもので、冷蔵庫の動く音にすぐに気づいたのは母でした。階段の電気がついて、玄関が明るくなって、母は寝ている私と姉と父に「電気がついた」と大きめな声で呼びかけましたが、私たちは夢の中にいて全く反応しなかったそうです。電気がつくまではカセットコンロを使ったり、炭をおこしたりしていました。何を食べていたのかまではさすがに覚えていません。

水が完全に復旧したのは 17 日でした。15 日から少しずつ水が出てきて、お風呂に入れたのは 17 日でした。お風呂は錆びの色をしていました。かび臭くて、茶色いお湯でしたが、とてもありがたかったです。2 回身体を洗った気がします。電気と水が使える生活がこれほど便利でありがたいものであると、小学生の私でも痛感しました。

私が経験した、地震が起こってからライフラインが復旧するまでの一週間ほどの生活は以上になります。それからの生活はいつも通りでしたが、地震に対しての恐怖は消えません。今私は仙台で一人暮らしをしていますが、地震が起こる度に身体が動かなくなります。布団に入って寝ようとしたときに小さな地震が起こった時が何度かありましたが、例え震度 3 でも、いきなりドンッと言音がして揺れ出したらどうしようと不安になるのです。私は内陸の市に住んでいるので、津波の被害は受けていません。けれど、二次災害がなくとも、恐怖は頭にこびりつくように今でも抱えています。

余震を知らせる鈴がありました。家の玄関から居間に入るための扉に付けていた鈴でした。ただの調度品でした。けれど、この鈴がチリンと突然鳴ったとき、いつも余震は起こっていました。あの 11 日も、ずっと鳴っていました。知らせるものとして家に飾っておくのもありだなと思います。

私の家は太陽光発電が置いてあったので、充電していた電気でテレビだけは見ることができました。私が学校で作ったラジオを手回し充電で使ったりもしました。同じコマーシャルが流れるテレビはとてもつまらなくて、流れる内容はどれも同じで、テレビを見るという娯楽はありませんでした。私はテレビをあまり見ない人間だったので、余計につまらなく感じました。震災の被害や状況の説明ばかりで、嫌になりました。

母は言います。「職場で避難先から貰った期限切れのあんパンは本当においしかった」と。私だけでなく、家族全員が震災によって今の生活のありがたみを再確認したと思います。いいきっかけであったとは絶対に言えません。けれど、再確認するというのは大事なことだと思います。

悲しくも、私の同級生のほとんどは忘れてしまったかのように笑顔で過ごしています。重く抱えて生きろ、とは言いません。けれど、何もなかったような顔をしながら黙祷を面倒くさがる姿に、どうして？という疑問しか浮かびませんでした。中学 2 年生のころです。そのとき私は、クラスの子に距離を置かれるのが嫌で流すことしか出来ませんでした。違和感だけが残っていました。時間が経っていくにつれ、私の世代の人たちの意識は薄くなっています。むしろ、違和感を持った私の方がおかしいのか、とさえも思った事があります。

海を大事に思ってきた漁師さんのお話を聞いて～汚染水を流す政府の行いは非道

今年 1 月に浜通りに連れて行って頂きましたが、素直な感想を申しますと海が綺麗だと思いました。内陸にすむ私にとって海は何度行っても特別です。宮城県にも海はありますが、南三陸の海とはやはり違って見えました。

魚を見るのも食すのも好きな私は、福島の手がまた汚染されかねない状況にあるということが大変残念に思っています。浜通りに行ったときにお昼に食べた海鮮丼はとてもおいしかったです。仙台のお魚に負けていないくらい美味でした。この福島の海がようやく綺麗になって、魚が安心して食べられるようになったというのに、日本政府が汚染水を流そうとしていることに憤りを感じます。これから先もあり続けなければならない水資源をなくそうとしているようにしか見えませんでした。漁師さんのお話を聞いて、その熱弁をふるう様子を見るだけでもどれだけ海を大事に思ってきたのかが分かります。ずっとそれを職業にしながら海と一緒に生きていた人たちにとっては特に、政府の行いは非道でしょう。私は汚染水を流すことに反対です。

飯館村に住む人のお話を聞いたときも、日本の原発に対しての認識はいかに甘いかを理解することが出来ました。よその土地の廃棄物が、住んでいる地域に置いてあるのは私でも落ち着きません。

双葉町の、放射線量が高いところに車が入ったとき、そのときだけ肩から腕にかけて内側からひしひしと痛む感覚が確かにありました。激痛ではありません。小さな痛みでした。そこを抜けた後はなんともありませんでしたが、二日目に行った請戸、浪江の一部の地域でも痛みはありました。気のせいではなかったと思います。

政府は復興が終わったというような振る舞いを見せていますが、全然そんなことはないと思います。私は卒論を練習する授業で、基礎知識を勉強して発表しましたが、本を読んでも、浜通りで話を聞いても、復興が進んでいるとは思えませんでした。政府は支援を打ち切った後のことまで考えているのか疑問です。ソ連政府と日本政府を比べた結果、どちらも情報を非公開にしていたりと、結局人間同じ事をやるんだなとも思いました。

私はまだ未熟なので、今は原発反対とは言いません。原発によって生活が便利であることは事実ですから、メリットも考えると簡単に否定することができません。けれど、無知ではいけないと思います。メリットだけではなくそのリスクも知っておくべきだと思います。不愉快に思われるかもしれませんが、私の今の考えはこの通りです。

自分の目でチェルノブイリを確かめるために私はベラルーシに行きたい

初めて振津先生にお会いして、ベラルーシに行ってみてはと誘われたとき、そのときの私はただの好奇心と興味しかありませんでした。今もそうではありますが、事前準備として勉強した結果から、果たして本に書いてあることは本当なのか？ という疑問に至ったため、それを自分の目で確かめるために私はベラルーシに行きたいと思っています。私がチェルノブイリをみたいと思った理由はそれ一つです。

【カンパ・会費の納入ありがとうございました！】 (2020.2.19～2020.5.5)

金山次代 末田一秀 田川克孝 門林洋子 清水昭 田原良二 吉崎恵美子 田岡ひろみ 藤田達 堀口眞也 中沢浩二 谷岡文香 杉本泉 小村幸子 佐藤みえ 梅原桂子 辰野純子 岩部始 宇野田陽子・佐藤大介 中山一郎 三田宜充 川邊比呂子 小副川久代 小林まゆみ 大平文昭 玉城豊 公庄れい 村井さとみ 中井忠 金子龍太郎 松田高志 山下晴美 嶋田千恵子 井上和歌 木下俊子 伊藤勝義 渡邊とみ子 泉廸子 山平利恵・順三 斎藤直樹 小西ゆみ子 堀口眞也 田中章子 振津かつみ 久保きよ子 猪又雅子 (敬称略・順不同)

【紙芝居の DVD：「無念」「浪江ちち牛物語」】

3月11日で9年でしたね。皆さん、どのようにお過ごしでしたでしょうか。

フクシマ事故被災地も同じように年月が過ぎましたが、ふるさとは元には戻らない。思うことは多くとも、コロナ感染を避けるためにイベントは次々中止。何もできない、風化は進む。閉鎖された自宅待機のなかで、何となくあの時と重ねた方もおられたかと思います。

被災地と思いをつなぐ何かがないかなあと思い、「東日本大震災 10 周年事業 未来に伝えたい 10 の物語 ふくしま絵うた本プロジェクト」の紙芝居とアニメーションの DVD をご紹介します。

本当は、また、浪江町の「浪江まち物語つたえ隊」の岡さんに来ていただき、紙芝居をしてもらいたい！ せめて、みんなで集まって一緒に DVD を観たい！ でもでも、それもこれもかなわないので、DVD を借りて、少人数で視聴を希望されるようなら、「救援関西」にご連絡ください。紹介できます。（買うこともできます）

《無念》

以前もご紹介した、原発から 10 kmにある福島県浪江町の消防団のお話です。消防署員ではなく、町の人たちが自主的に作っている消防団です。

大地震と津波に見舞われて、自らも被災しながら、なんとか住民を助けようと奮闘する消防団員たち。流されて九死に一生のおばあちゃんは、団員に助けられました。

「すまねえなあ。でもよう、流された時、じっさまもいたんだ。オラはいいからじっさまを探しとくれ」という。団員は「わがった。ばっちゃんを連れて行ったら、必ず探しに来るから」と約束する。しかし、その約束は守ることはできなかった。

震災に続く原発事故で 3 km圏内、続いて 10 km圏内が立ち入り禁止となり、助けられる命を助けられなかった団員の苦しみを描いています。東北の 3 月、津波につかりながら救助を待つ人々が脳裏に焼き付く。「すまねえ、すまねえ」「原発さえなければ、助けられたんだ」「いや、いや、俺たち、許してもらえないだろうな」と。

DVD では、このお話の後のいろいろな人々の経験や「無念」の思いもオムニバスの的に伝えます。



《浪江ちち牛物語》

原発事故の放射能汚染で多くの酪農家が牛を処分したことが報道されましたが、「処分」と言葉でいうのと、実際に起ったことは、とてつもなく違います。

「物語」では、牛の目線で、牛が話をします。ちょっとコミカルに、福島弁で、突然人間がいなくなり、エサが山積みになっていたことや、お乳がはって苦しかったが、帰ってきた「父ちゃん」が絞ってくれて気分が良くなったことを。

面白いタッチでお話は続くのに、動物たちにその後起こった運命を思う時、「父ちゃん」に起こったことを思う時、（動物に弱い私は）泣けてきて最後まで見られませんでした。いやいや、子どもたちも観られるように作られた可愛い牛たちの面白い紙芝居です。そのあとちょっと考えてもらえるように。

（長沢由美）



～新型コロナウイルスのパンデミックの中で・・・「移住者の会」ジャンナさんから～
またお会いできる日まで、なんとか耐えましょう！

「核被害のない世界」をめざす私たちの活動はこれからも続きます

新型コロナウイルスの世界的パンデミックの中、チェルノブイリ被災地の友人たちも、それぞれの国の対策の違いはあれ、不安で重苦しい「自粛」生活を強いられています。健康を守りながら耐え、友情を繋いで「核被害のない世界」という共通の目標に向かって取り組みを続けましょう…と、ベラルーシ、ロシアのチェルノブイリ被災地の友人たちとメールのやりとりをしています。ベラルーシでは保健省は感染拡大防止の勧告を国民に呼びかけているようですが、ルカシェンコ大統領は楽観論を繰返しているようで、このような状況がかえって国民を不安に陥れているようです。一方、ロシア・ノボジブコフのNGO ラディミチのカーチャさんからのメールでは、「外出は制限されて警察が通りで監視しているの。食料品店、薬局、病院以外は、全て閉鎖。私たちのNGO も活動休止を余儀なくされています。」との事。

今回は、ミンスク・マリノフカの「移住者の会」代表ジャンナさんとのやり取りの一部をご紹介します。ジャンナさんは、3月に予定していた日本の若者のベラルーシ訪問の受け入れをほんとうに一生懸命、準備して下さっていました。（事務局・振津）

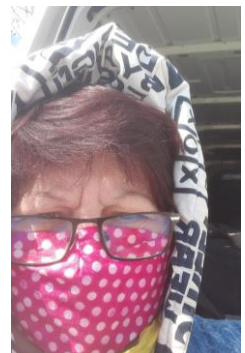
コロナ感染拡大の中で…全ての情報が隠された 1986 年 4 月を思い出します（4 月 2 日）

こんにちは。皆さんがベラルーシを訪問できなかったことを、毎日残念に思いつながら過ごしています。コロナウイルス感染対策のために、まるで「別世界」になってしまったように感じています。

私たちのところでは、「外出制限」はありません。政府からの情報を誰も信用していませんし、コロナ感染者数も毎日報道されるわけではありません。政府は5月9日（第二次大戦の「戦勝記念日」）のパレードの準備をしています。それに7月には「スラブ・バザール」という国際歌唱コンテストも計画され、サッカーの国内大会もありますが、今のところどれも中止されていません。手をよく洗って感染予防をするようにとの勧告がされ、多くの公共施設では来所者のための消毒液が設置されました。店にはアルコール消毒液は（売り切れて）ありません。国産の三重ガーゼのマスクが販売されていますが、ひとつ 0.5 ドルもするので自分で布マスクを縫っています。学校も少し前から休校になりました。オンラインで開催されるイベントもあります。死者もすでに出ていて、数日前にベラルーシの有名な芸術家が亡くなりました。多くの人々が病院で隔離され、治療を受けています。なのに、政府からは「外出制限」の指示はありません！情報が全て隠ぺいされています。皆、1986 年 4 月のことを思い出しています。あの時もチェルノブイリに関する情報が全て隠されていましたから。

私自身は、公共の場所にはできるだけ行かないようにしています。（障がいのある息子の）パーベルを守らなければなりませんので。3～5日に1回くらいしか外出しません。でも、政府からの「外出制限」の厳格な指示や、コロナウイルス感染予防の具体策が出されないと、人々は油断してしまいます。勿論誰もが自分で自分の身を守るべきです。しかし、先週末はとても気候がよく暖かだったので、人々は公園などに散歩に出かけていました。全てが恐ろしく、悲しい状況です。

なんとか耐えましょう。皆さんも日本で耐えて下さい。どうか病気にならないで下さい。ほんとうに皆さんにお会いしたいです。すぐにまた会えることを願っています。皆さんにどうぞよろしくお伝え下さい。日本での感染拡大の状況はいかがですか。



感染予防の自作マスク
に大きな眼鏡を着けた
ジャンナさん

3月11日にフクシマの友人の方々に連帯のメッセージを送れなくてすみませんでした。チェルノブイリ事故被害者からの挨拶をフクシマの被害者の皆さんにお伝え下さい。皆さん、一人一人のことをよく思い出し、いつも心を寄せています。

ジャンナ

ベラルーシの皆さんは「チェルノブイリの日」をどのように過ごされましたか？（4月29日）

ジャンナさん、お元気ですか。ご家族や友人の皆さんはいかがお過ごしでしょうか。どなたも感染していないことを願っています。とても大変な日々を送っておられることでしょう。ベラルーシでも感染者数が増加しているとのニュースを読みました。とにかく日本の友人の私たちは、今のところ大丈夫です。日本ではまだ「緊急事態」で、政府からは不要不急以外の外出は避けるようにとの勧告が出ています。先日お伝えしたように「チェルノブイリの日」にちなんだ私たちの集会は、今年は開催できませんでした。しかし、私たちはいつもベラルーシの友人の皆さんのことを思っています。チェルノブイリ被害者に思いを馳せる日を、このような状況で迎えなければならなかったことを残念に思います。皆さんは、「チェルノブイリの日」を今年はどうに過ごされましたか。パンデミックが早期に（楽観視できませんが）終息することを心から願っています。そしてまたお会いし、核被害のない、よりよい世界に向かって、ともに活動できることを願っています。

ご健康と日々の幸せを願っています。ご家族の皆様、マリノフカとナローブリアの友人の皆様によりしくお伝え下さい。

沢山の抱擁とともに。かつみ

チェルノブイリ事故を記憶するために自宅でキャンドルを灯し…（4月29日）

かつみさん、メッセージを受け取って、とても嬉しく思います。「チェルノブイリの日」の連帯・支援の言葉を送って下さってありがとうございます。今年は、コロナウイルスのために全ての計画や活動がキャンセルになりました。被害者は、互いに支え合う言葉をショートメッセージのアプリを使って交換し合いました。ドイツやスペインからも連帯のメッセージが届きました。ベラルーシ、ウクライナ、ロシアでは4月25日の23時に、チェルノブイリ事故を記憶するために、それぞれが（自宅のテーブルの上で）キャンドルを灯しました。写真は、私が灯したキャンドルです。

私はこの3週間、ミンスクからどこにも行っていません。息子夫婦が食べ物を持って来てくれます。ウイルスのせいではないのですが、パーベルの健康状態をととても心配しています。

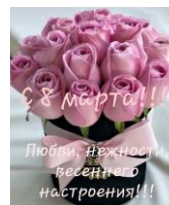
ベラルーシでは政府による「外出制限」の勧告はありません。毎日、感染者数が増加しています。今日は919人が新たに感染しました。病院はいっぱいです。いつもマスクと手袋を着け、消毒薬を持ち歩いています。しかし、感染予防のための保健省の勧告に従わず、マスクを着けようとしない人もいます（注：これは暗にルカシェンコ大統領のこと）。今年はパンデミックのために、チェルノブイリの移住ゾーンでのセレモニーに参加した人はとても少なかったです。私も勧告に従って、ミンスクにある、母や夫の墓参りにも行きませんでした。

低学年の子供たちは登校していますが、私の孫たち（高学年）は休校中です。孫たちはラップトップで勉強していますが、オンラインプログラムがあまりよくなくて、うまくいかないようです。5月4日までに、ベラルーシでは感染ピークを迎えるだろうと予測されていますが、誰もどうやってそんなことが実現するのかわかりません。政府は多くの情報、特にウイルス感染による死亡率などを隠しています。誰か亡くなっても、他の原因による死亡と書かれるのです。



今は何もかもが困難で先が見えません。でも、いつかまた皆さんにお会いできると思いますし、そう願っています。そして、私たちの「核被害のない世界」をめざす活動は続きます。今日、ベラルーシの原発が稼働しなかったこと嬉しく思います。今後も決して稼働しませんように!!!

かつみさん、全ての私の友人の皆さん、どうかご自愛下さい。誰も病気になりませんように。こちらは寒い日が多く、まだ庭に花が咲きません。木々も芽吹いていません。皆さんによろしく。じっくりと待ちましょう。 あなたを抱擁します。ジャンナ



～関電に毎年行っている申し入れ「延期」のFAXを送りました～

2020年4月24日

関西電力株式取締役社長 森本 孝 様

『チェルノブイリの日』にちなんでの申し入れ」を延期します

私たち「チェルノブイリ・ヒバクシャ救援関西」は1986年4月26日に旧ソ連で起きたチェルノブリ原発重大事故に心を痛め、被ばくと放射能汚染に苦しむ現地の方々との交流・支援を続けてきました。その中で被ばく被害は広範囲・長期にわたり取り返しがつかないことを学び、「チェルノブイリを繰り返してはならない」と訴えてきました。

チェルノブイリ被災地では、4月26日を「チェルノブイリの日」として、事故を語り継いでいます。事故から34年経った今も「保養」「健診」「食品の放射能測定」など健康を守り、被ばくを避ける努力が続けられています。

チェルノブイリ事故の教訓を学ばず、とりわけ地震国日本での原発の危険性を危惧する私たち市民の訴えにもかかわらず、日本政府及び貴社をはじめとする電力会社は原発推進を続け、ついに2011年、大地震・津波に伴い東京電力福島第一原発で重大事故を起こしてしまいました。フクシマ事故の被災地では、9年以上経った今も放射能汚染が続く多数が避難生活を強いられています。被災地に元の生活が戻ることはなく、被害者の苦しみは癒えることがありません。

原発事故は人災です。原発を動かし続ける限り重大事故の危険性は避けられません。世論の大半は「原発再稼働反対」です。私たちは貴社に毎年「チェルノブイリの日」に際して、原発から撤退するしかなくそのため再生可能エネルギーに転換するよう申し入れを行ってきました。しかし、貴社はフクシマ事故を経験した今も原発を維持することに固執し続けています。この間明るみに出されことは、公益事業を担う立場にありながら、長年にわたる原発を推進するための利権構造作りであり、その上、フクシマ事故後2回も電気料金を値上げしながら、陰でこっそり役員報酬カット分を補填することまで行っていました。貴社は腐敗・隠ぺい体質を反省するどころか繰り返し、さらに上塗りしており言語道断です。「信頼回復」を口にするのであれば、今すぐ原発から撤退し、再生可能エネルギーに方針転換してからです。

今年は新型コロナウイルス感染拡大防止のため緊急事態宣言が出され、外出の自粛が要請されています。このコロナ禍が落ち着いたら、改めて本社に申し入れに伺います。その時は真摯に対応し、申し入れ内容について説明を聞き、質疑の場を設けるよう強く求めます。

以上よろしく願いいたします。

チェルノブイリ・ヒバクシャ救援関西

ニュース発行:チェルノブイリ・ヒバクシャ救援関西事務局

連絡先:〒591-8021 堺市北区新金岡町1-3-15-102 猪又方

Tel: 072-253-4644, e-mail: cherno-kansai@titan.ocn.ne.jp

郵便振替:00910-2-32752

口座名:チェルノブイリ・ヒバクシャ救援関西